

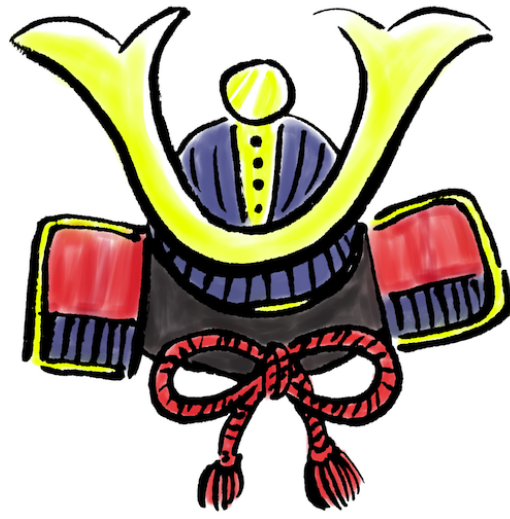
# 宿縁

五月号

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号  
 浄土真宗  
 本願寺派 **中原寺**  
 TEL 〇四七―三七二一〇二九二  
 FAX 〇四七―三七二一〇二六二

## 井の中の蛙

### 大海を知らず



三月の二十七日から二十九日までの三日間、カリフォルニア州バークレー市の「本願寺仏教センター」を会場に開催された『アメリカと日本のチャプレン会議』に出席するご縁をいただきました。

チャプレンとは聞きなれない言葉かと思いますが、病院、養護施設、介護施設、刑事施設等で患者、家族、スタッフ、被收容者の精神的、宗教的スピリチュアルなニーズを支援する聖職者のことです。

最近では大災害や震災など思わぬことに

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号  
 浄土真宗  
 本願寺派 **中原寺**  
 TEL 〇四七―三七二一〇二九二  
 FAX 〇四七―三七二一〇二六二

遭遇して、家や家族を突然失い肉体的にも精神的にも深い傷を負っている人、また自死を願望する人へ寄り添うなどの大切な道にも広がりを見せています。

今回の会議でプレゼンテーションの一人に招聘された私は宗教教師として「心情の安定を目的とした教誨の実施上における仏教の役割と今後の期待について」語ってほしいというものでした。

会議の前後二週間を初めて過ごしたアメリカでは、何といっても思わぬ素晴らしい人たちと出会えたことでした。仏教に関心を示す聴衆は勿論のこと、仏教を実践し研究する意欲ある人生を歩んでいる人たちと巡り合ったことは大きな収穫です。アメリカでは、かつて日本から移民した人たちの仏教徒の時代は過ぎ去り、伝承の難しさを感しながらも、あらゆる問題が生じてきた現代にあつて仏教への関心を持つ若者たちが多くなっていることを実感しました。

中原寺にもたびたびご法話にお出でいただく武蔵野大学名誉教授のケネス田中師は著書「目覚めるアメリカ仏教」の中で、次のような二つの願いが含まれていると言われます。その一つは、欧米において仏教が伸長しているという興味深い現象を、日本の人により広く、詳しく知ってほしいということ。仏教は「西洋の壁」を超え、もはや「東洋」に限るものではなくなった。そ

して二つ目の願いは、現代の日本仏教を新しい視点から考え、改革を目指す人々にとつての参考となるということです。アメリカ仏教には、未来の仏教、本来の宗教の在り方自体が潜んでいるのではないかと考えられる、と申されていることを私自身思い起こしました。「百聞は一見に如かず」でしょうか。

そこで、仏教生きていく上の柱となる教えは、先ず個人としての目覚めが尊重されなければなりません。今日の日本の仏教は江戸時代に制度化された寺檀制度(すべての人々を特定の寺院に檀家として所属させる)が色濃く残っています。これは寺院と檀家との関係を信仰上の関係から形式的関係へと変化させる要因になりました。これは本来の仏教は家中心ではなく、個人として尊重されるべき信仰(宗教)のありようが二の次になつてしまつたのです。「宗教の自由」は日本国憲法の保障する基本的人権で、憲法第二十条によつて保障されています。

先のケネス田中師は、「なぜ今、アメリカ人は仏教に魅了されるのか？」の中で、『アメリカは宗教への関心が非常に高い国であり、日本とは比較にならないほど社会や教育に宗教が浸透している。そうしたアメリカ人が、六十年代後半頃から一気に仏教に関心を持った原因はどこにあるのか？キリスト教から仏教へ改宗した人たちに尋ねると、キリストの復活を「信じる」ことより、煩惱による誤った見方を是正して自らが「目覚める」ことを究極の目的にする仏教の教えのほうに魅力的だと答える人が実に多い。キリスト教やユダヤ教には、立派な教義があるが、その教えを体験する方法が明確ではないの

に対し、仏教は誰もが日々実践できる瞑想などを通じて実際に教えを体験できることに惹かれると話す。』

と書いていますが、注目すべき指摘だと思います。

このたびの『アメリカと日本のチャプレン会議』に日本から出席され、親しく声をかけてくれた東京大学東洋文化研究所の川本佳苗さんは、実に仏教を実践し行動されていて、2004年から自死防止活動を開始し、生き辛い思いや死にたいほどの悩みを抱える方の声に耳を傾けたいと願うボランティア活動、京都自死相談センターSOTTOにも在籍されました。

川本さんはサラリーマン家庭に生まれ、国内外で音楽家として活動した後、2008年から六年間ミャンマーで東南アジアの上座部仏教の修学と瞑想修行をし、2014年に帰国しました。柔軟にオープンに研究して仏教学と人類学を融合した独自の仏教研究をされています。

「井の中の蛙大海を知らず」の諺がありますが、とかく自分の殻の中が安全だと思つてしまう私たちの人生は、もっと柔軟な生きかたこそ大切なので、事や出会いの中にきっと新鮮さがあるのだと教えられました。

親鸞聖人はご自身の精神遍歴を三願転入(倫理的執われ↓自己満足↓仏の願いに身をまかす)で頭わさされていますが、その結論だけを安易に受け取ることなく、自分が歩む生き方の中で領けることでなければなりません。仏教は人の生き方を眺めているようでは自分の力には少しもならないし、自らの目覚めにはならないことを教えられました。

【寺灯雑記】

○桜の花の下、花まつりを祝う  
4/7

境内の枝垂れ桜が参加者を出迎えるように咲き誇るなか、花まつりが開かれ、子どもたちと一緒にお釈迦さまのお誕生日をお祝いしました。

お釈迦さまの像に甘茶をかけたたり、慣れない様子で手を合わせ、一生懸命に読経をする姿はとても微笑ましく、印象的でした。

その後のお線香作りでは、それぞれに好みの香りに調合し、思い思いの形に整えて、世界に一つだけのお線香を仕上げました。

5年ぶりとなったお餅つきは、子どもたちが重い杵に悪戦苦闘しながらついたお餅をいただきました。

☆参加者からの声

御堂では皆でお経を唱え、子供たちが仏様に甘茶をおかけし、花まつりについて知ることができました。お餅つきや線香作りは、大盛況でも盛り上がりました。毎年地域に向けて楽しいイベントを企画してくださるので、とても嬉しいです。いつもありがとうございます。



○入門式が行われ、法友のお仲間入り

4/21

浄土真宗門徒として新たに中原寺とのご縁を結ばれる入門式が行われ、今回は二名の方が出席されました。住職より門徒式章が授与され、受式者宣誓文を阿弥陀さまの尊前で拝読し、浄土真宗門徒としての思いを新たにされました。

【仏事Q&A】

Q、永代経とはどのような意味ですか？

永代経とは、永代読経（えいたいどつきよう）を略した言葉です。永代経という経典があるわけではありません。一般的には、永代供養として亡くなられた方への追善供養や追善回向のため、寺院で永代にわたって読経することとして理解されています。

浄土真宗でも「寺院で永代にわたって読経すること」であることは、他宗と変わりありません。しかし、他宗とは読経の趣旨や読まれる経典は異なります。

浄土真宗では、他宗のように追善供養や追善回向のための読経はしません。浄土真

宗の教えが永代にわたるまで、いつまでも伝わっていくことを願い、阿弥陀如来のお徳を讃えるためのお勤め（仏前でお経を読むこと）をします。

浄土真宗の教えとは、阿弥陀如来のはたらきによって恵まれた「南無阿弥陀仏」のお念仏によって、浄土に往生し、仏に成る道です。この教えに基づいて永代経を勤めることで、多くの方が浄土真宗のみ教えに出会い、阿弥陀如来のお心に触れることとなります。

私たちが手を合わせ、お念仏を申すことができるのは、浄土真宗の教えをよるこび、念仏に生きられた方々がいらっしやったからです。永代経を通して、「浄土真宗の教えに出会う場が、永代にわたって存続してほしい」という先人たちの思いを受け継いでいくことが大切なのです。

『仏事Q&A 浄土真宗本願寺派』

【法要・法座・行事のご案内】

○お仏具磨き・清掃奉仕

\*五月四日(祝) 十時半〜

皆様の奉仕の精神で、日頃から仏教が説かれる大切な場所やお仏具等を磨く布施の実践行です。

どうぞ時間を空けてお出かけください。

昼食を用意しています。

○婦人会法座

\*五月四日(祝) 一時

今回は趣味講座として「一閑張り皿」を作ります。材料は準備していますので気軽に楽しみましょう。

○子育てサロン(パンダっ子)

\*五月十三日(月) 十一時〜十四時

子育て親子の交流の場です

☆宗祖降誕会並びに門信徒総永代経法要

\*五月十九日(日)

・法縁廟法要 十二時半(第二墓地)

(納骨されている方の合同法要です)

・降誕会並びに永代経法要

一時 (本堂)

献灯・献花

お勤め 「重誓偈」(ちかいのうた)

讃仏歌 「親鸞聖人降誕会」

お勤め 「正信念仏偈」

法話 鷲元明俊師(那珂市上宮寺)

親鸞聖人が常陸で約二十年間ご教化されていたころ、山伏弁円は親鸞聖人を妬み何度も殺害を試みましたが果たせず、ついに改悛してお弟子となり明法房と称しました。そして開基したお寺が上宮寺です。

ご法話を楽しみにお聞きください。

○親鸞セミナー(無量寿経解説―出世本懐)

\*五月二十五日(土) 二時

○婦人会法座(御文章五帖第六通)

\*六月一日(土) 一時

【五月の掲示板のことば】

「あなたが必要だ」

この一言に

生きる力をもらう